

## 凡 例

- 全文書を、書翰の部と書類の部に分けた。但し、若干の入組はある。
- 書翰の部
  - 一、 五代友厚関係書翰と五代龍作関係書翰に、二分類した。
  - 一、 発信人別・年代順に配列した。
  - 一、 記号。R59は、マイクロフィルムのリールNoとその中の資料順番を、M54は、原文書の表装卷子のNoとその中の資料順序を示す。
  - 一、 →記号は、連名発信人の場合に附し、→印の発信人で内容を参照されたい。
  - 一、 日付の次に記す（ ）内人名は、連名発信人である。
  - 一、 五代友厚・五代龍作各関係書翰ともに、宛先は、それぞれ五代友厚・五代龍作である。第三者宛のもの、連名宛のものは、その名前を〔 〕内に記した。
  - 一、 その他の記号は、整理番号である。
- 書類の部
  - 一、 五代友厚の経歴・関係事業を中心に項目をたて、分類・配列した。五代龍作関係書類も、この中に入れた。
  - 一、 記号は、書翰の部と同様である。
- 原文書の表記・表現をなるべく生かして、目録の内容に記した。
- 年代・日付は、原文書に記載のあるものはそれを記し、それ以外は、整理者が推定して記した。